

平成 28 年度環境・社会理工学院共通経費による顕彰と研究助成 成果報告書

所 属	融合理工学系
研究者 (フリガナ)	江頭 竜一 (エガシラ リュウイチ)
タイトル	国際開発工学を通じた AOTULE 加盟大学との学生交流
助 成 名	国際連携研究助成
採択金額	300,000 円
<p>背景と目的</p> <p>国際開発工学科の授業科目「国際開発工学コロキウム」においては、工学ならびに関連する分野を総合的に応用するプロジェクトの進め方を学習させている。具体的には、開発途上地域に 100 万キロワット級の火力発電所を建設することを想定して、途上地域での電力事情、発電所建設 ODA、発電プロセス、財務・経済分析理論の基礎、などの概要を講義したのち、学生をそれぞれ 6 ~ 7 名の 3 ~ 4 グループに分けてこのグループごとに発電プロセスの計算、立地場所の選定、所内の配置計画、環境影響評価、財務・経済分析、等を行わせ、その結果を発表、討論するものである。また、このような模擬プロジェクトを国際的な場で他国の学生との討論も含む形でも行うことができれば、学生の理解もさらに深まるものと期待できる。</p> <p>AOTULE では、毎年メンバー大学が持ち回りで学生ワークショップを開催している。ここでは幅広い工学分野からの大学院生の研究発表が主であるが、本学を含む一部のメンバー大学からは学部生も派遣され様々な活動に参加している。大学院生の研究発表はもちろん、この学部生の活動についても、ワークショップの活性化に効果を上げていると、ホスト大学や他のメンバー大学から好評を得ている。</p> <p>本助成の利用においては、昨年度までと同様に上記「国際開発工学コロキウム」における H29 年度の 4 グループのうち最も評価の高いグループの中で特に評価の高い学生 3 名を AOTULE 学生ワークショップに派遣し、国際的な場での他国の学生との討論、発表などを経験させること、この参加への意欲を奮奮材料として本授業科目全体を活性化させること、ならびに AOTULE 活動を通して学生交流を活発化させることを目的とした。</p>	
<p>実施概要</p> <p>上記の通り、「国際開発工学コロキウム」において評価の高かった受講生を AOTULE 学生ワークショップに参加させた。詳細は以下の通りである：</p> <p>AOTULE 学生ワークショップ</p> <p>日程： 平成 28 年 11 月 23 日(水) ~ 25 日(金) (渡航は 11/23 (火) ~ 11/26 (土))</p> <p>開催地： 香港科技大学 (中国・香港)</p> <p>参加学生： 国際開発工学科 3 年生 3 名(日本人 2 名、留学生(中国) 1 名)</p> <p>引率教員： 江頭 竜一</p>	

国際連携用

本年度の成果

上記「国際開発工学コロキウム」における AOTULE 学生ワークショップへの派遣は本年度で 5 年目となる。受講学生の間にもこの派遣の試みが十分浸透し、本年度の学生 4 グループいずれもまたそれぞれの学生も甲乙つけがたい成績であったが、結果として下記の 3 名の学生を派遣することとなった。本プログラムが大きな発奮材料となり、当該授業の活性化に大きく貢献していることは言うまでもない。

本年度の AOTULE 学生ワークショップでは、学部生については成果発表ではなく大学院生を含む他大学の学生との無作為に作られた 5 名のチームによる模擬プロジェクトの遂行が課された。参加した 3 名はそれぞれ異なるチームで他の大学の学生たちと当然のことながら英語によりプロジェクトについて討論、発表を行った。また、大学院生の成果発表の会場にも積極的に足を運び、熱心に発表に耳を傾けていた。授業とともにプロジェクト遂行に対する理解が深まるだけでなく、今後、学士論文研究、さらには大学院への進学を控える学部 3 年生にとって貴重な学術活動の経験になったものと思われる。本ワークショップにおいては、主催の香港科技大学を含む参加大学の教職員、学生と合同での市内見学、会食、などもあり、これらへの参加による他国、他大学学生との交流も深めることができた。

以上より、派遣した 3 名の学生が学術活動、国際交流の経験を得ただけでなく、AOTULE 活動の活発化にもつながったものと思われる。

使用内訳書

費 目	内 訳	金 額
備品 1		
備品 2		
消耗品		
旅 費	国外出張 (11/23~11/26, 渡航先: 香港, 渡航者: 田川, 石橋, 熊)	349,000
その他		
合 計	差額 49,000 円については、創造性育成科目経費支援により補填。	349,000

記入上の注意：

備品は、品名ごとに記入。

差額が生じた場合は、消耗品で調整。

消耗品を購入しなかった場合は、経費の差額と補填した予算科目名を合計額の内訳欄に記入。